

スーパー耐久シリーズ 2021 Powered by Hankook 第3戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース

2021年5月21日(金)~23日(日)
富士スピードウェイ (静岡県)

新車投入でトップ快走も…… 3連勝目前でまさかの結末



FREE PRACTICE

第1戦もてぎ、第2戦 SUGO と見事連勝を飾ったKTMS。迎える2021年第3戦は、シーズン最長距離であるNAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レースだ。2020年は参戦しなかったが、チャンピオンを狙うためには落とせないレースだ。

そんなシリーズの天王山へ向け、KTMSはこれまで開幕前から準備を進めてきたKTMS GR YARISの“1号機”を投入することになった。これまでのKTMS GR YARISはいわば“借り物”の車両で、これまでGR YARISが培ってきたノウハウをつぎ込んだ車両だ。タイトな2021年前半戦のスケジュールを縫って製作が進められ、第3戦に先立つ5月17日(月)に

ついにシェイクダウンされた。配線等のマイナートラブルをつぶし、いよいよ5月20日(木)からの専有走行に臨んだ。

今回KTMSは24時間レースということもあり、野中誠太、平良響、翁長実希の3人に加え、若手有望株の一條拳吾を加えたラインアップで挑む。一條は2020年にスタッフとしてチームを手伝っており、気心も知れた間柄。速さも文句なしだ。

曇り空のもと迎えた専有走行1回目では、4人がドライブし野中が1分55秒256というタイムを記録し、さっそくトップに立つ。ウエットとなった2回目の走行でも上位につけるなど、新たなKTMS GR YARISは剛性のアッ



プなどにも助けられ、非常にフィーリングは良好。月曜からステアリングを握ってきた4人のドライバーたちの手ごたえも高く、しかも乗れば乗るほど馴染んでいくかのよう。KTMSは3連勝に向けて好調なすべり出しをみせた。

5月20日 スーパー耐久 STEL 専有 1st 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	1'55.256
2	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	1'55.592
3	24	GV Race Analytics GR YARIS	1'55.873
4	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	1'56.038
5	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	1'57.266

5月20日 スーパー耐久 STEL 専有 2nd 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	7	新菱オート☆VARIS ☆DXL ☆EVO10	2'01.382
2	6	新菱オート☆NEOGLOBE ☆DXL ☆EVO10	2'02.227
3	225	KTMS GR YARIS	2'05.228
4	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	2'06.706
5	24	GV Race Analytics GR YARIS	2'10.265

QUALIFY

明けて5月21日(土)は、午後0時から公式予選が予定されていた。Aドライバー予選、Bドライバー予選と続けて行われる予定となっていたが、この日の富士スピードウェイは前線の影響もあり、朝から雨模様となっていた。

野中と平良のふたりは前週にオートポリスで強い雨と霧のなかでレースを行っていたが、この日の富士も強い雨が断続的に降り続き、風も強い。四駆のKTMS GR YARISならば走行も

可能な雨量ではあったが、ライバルたちにとってはそういうわけにもいかない。

大会審査委員会は開始時間前からディレイを繰り返し、雨が少なくなるタイミングを待ち続けたが、断続的に強い雨雲が富士スピードウェイ周辺に流れており、最終的に天候の回復が見込めないと公式予選はキャンセルに。チームはKTMS GR YARISを入念に整備し、翌日の決勝レースに備えた。



RACE



いよいよ迎えた5月22日(土)の決勝日。午前9時30分から行われたウォームアップでも4人のドライバーがKTMS GR YARISのフィーリングを確認し、午後3時からの決勝レースへ臨んだ。前戦までのランキングでグリッドが決まっており、KTMS GR YARISは2グループのポールポジションからスタートを切ることになった。

平良がスタートドライバーを務めたKTMS GR YARISは、スタートでトップを守るも、序盤からランサー勢が平良に襲いかかってくる。しかし、レースは長い24時間。無理に争うことはせず、安全にレースを進めていく。

今回チームは、4人の実力が高いことから、均等にスティントを設定し、平良→野中→翁長→一條と繋ぎ、それを繰り返していく作戦を敷いていた。平良は41周を走るといきなりダブルスティントで78周で野中へ交代。158周目には野中から翁長へ交代する。

KTMS GR YARISのペースは好調で、夜を迎える頃にはすっかりST-2クラスのトップの座を確固たるものとしていた。ただ、スタートからちょうど6時間が経過しようかという午後6時ごろ、翁長から「ブレーキが深くなっ

ている」という報告が入る。そこでKTMS GR YARISはピットインしパーツを交換。15分ほどのストップタイムとなったが、ダメージは最小限で、ふたたびコースイン。夜間走行となった一條もダブルスティントを走り、午後11時過ぎには1分54秒774というベストタイムをマークしてみせた。

その後も平良がダブル、深夜には翁長もダブルを走り、陽が昇る頃には野中へと繋ぐと、KTMS GR YARISの抜群の安定感、ドライバーたちのステディな走り、冴えるピットワークと、KTMSはその実力でトップの座を盤石のものとしていた。午前8時を過ぎ、レースは残り4分の1というところまで近づいていた。

爽やかな晴天のなか、ふたたびKTMS GR YARISをドライブしていたのは一條。しかし午前8時42分、これまで盤石のレースを続けていたKTMSの事態は一変する。

一條は直前からノッキングのような症状を感じ取ったが、突然ストレートでエンジンが停止し、KTMS GR YARISのフロントから大きな火の手が上がった。ドライバーにとって最も恐ろしいのは車両火災だが、一條は冷静にコースサイドに設けられているファイアステーションを探し停車した。

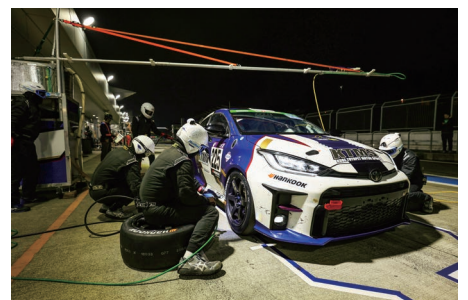
消火活動が行われるまでにはやや時間がかかったが、すぐに消火剤がかけられると、ようやく火の手は収まった。しかし、消火されるまでに大きな火がKTMS GR YARISを包んでいた。車両はリペアエリアに運ばれたが、ダメージは極めて大きく、リタイヤが決断された。

一條に怪我はなく念のためメディカルで酸素吸入を行ったが、一方でリペアエリアでは、チー

ム全員、3人のドライバーたちが、ファクトリーに向けローダーで運ばれていくKTMS GR YARISを見送った。火災の原因は、エンジン側の燃料ホースが抜けてしまったことだった。それが長距離レースに耐えられないものだったからなのかはまだ分からない。

3連勝を目前にしながらか、そしてチームも4人のドライバーも、いまやST-2クラス最強の存在になっていたことを証明しながらも、トップ快走中にはまったく想像だにできなかった結末となってしまった。

それでも、この経験を糧にもっともっと強くなるうー。チームは悔しい思いを振り払いながら全員が顔を上げ、新たな戦いへの決意を新たにした。



DRIVER'S VOICE



野中 誠太 SEITA NONAKA

初めての24時間で新鮮な週末でしたが、新車で走行を重ねつつ、順調に進んでいきました。ほぼレインでの走行でドライで走ったときにどうなるかの不安はありましたが、スピードはやはり前のクルマよりもあり、レースでもずっとトップをキープすることができていました。ペースを抑えていても他車より速く、優勝は目の前だろうと思っていましたが、クルマが燃えてしまうとは思っていませんでした。これが24時間レースの厳しさかな、と思っています。まだチャンピオンの可能性もありますし、ドライバーとしても、チームとしても切り替えて次戦に臨みたいと思います。



平良 響 HIBIKI TAIRA

ひとこと言っていて、とても悔しいです。何ヶ月も前からチームのみんまで一生懸命新車を作ってくれていたのは知っていましたが、月曜から走って感触も良く、今回は努力に報いるためにも良い結果で終えたいと思っていました。そのなかでずっとトップを守り、途中まではずっと順調だったのですが、その矢先にまさか火災に見舞われてしまうとは思っていませんでした。仕方ないことが起きてしまうのがレースかとも思っていますが、しっかりと現状を受け止めながら原因を突き止めて、もっと良いクルマを作れるように活かしていかなければいけないと思っています。



翁長 実希 MIKI ONAGA

充実のレースウィークで、レインでもすごくポテンシャルがあり、ドライでもすごく完成されたクルマだと感じていました。決勝では速さを証明しながらラップを重ねていて、このまま何も無ければ……と思っていた矢先の出来事でした。すごく悔しいですが、チーム全員が同じ気持ちですし、誰も怪我をしなかったのが安心しました。だからこそまた新しいスタートが見えてくると思います。私たちのチームは逆境を跳ね返し強くなってきたチームなので、これももっと強くなれるチャンスだと思っています。この悔しさをバネに、次に繋げていきたいです。



一條 拳吾 KENGO ICHIJIO

僕は昨年このチームでマネージャーをしていて、チームがすごく好きですし、こうしてドライバーとして戻れて本当に幸せなレースウィークでした。GR YARISはすごく乗りやすく、ドライバーへの負担も少ないクルマでしたね。新車でしたが、走行を重ねるごとに乗りやすくなるようで、ドライバーにクルマが合わせてくれるような不思議な感覚でした。火災が起きた際はエンジンが停止してしまい、退避路に避けようとしたところで火が出てしまいました。怪我はありませんでしたが、その点でも考えられているクルマだと感じました。またチームに加われるように頑張りたいですね。

5月23日 スーパー耐久 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	7	新菱オート☆ VARIS ☆ DXL ☆ EVO10	673	24:02'55.643	
2	24	GV Race Analytics GR YARIS	663	24:01'56.133	10Laps
3	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	645	24:01'31.084	28Laps
4	6	新菱オート☆ NEOGLOBE ☆ DXL ☆ EVO10	626	24:02'55.739	47Laps
5	56	Clarix Racing GR YARIS	596	24:02'17.916	77Laps
	225	KTMS GR YARIS	503	17:42'07.351	170Laps
	743	Honda R&D Challenge FK8	289	24:01'53.304	384Laps